

LORO

## 緩やかな回復基調

日本商工会議所がまとめた8月の全産業合計の業況DIは▼18・2と、前月から▼2・1ポイントの悪化。関東を中心とした記録的な長雨に伴う客足の減少や、農産物の不安定な出荷から、サービス業や卸売業、小売業の業況感が押し下げられた。また、人手不足の影響拡大や消費者の節約志向を指摘する声も多い。他方、電子部品、自動車関連の生産や、夏休みのインバウンド需要が好調に推移したほか、建設・設備投資の堅調な動きも続いている。中小企業の景況感は総じてみれば緩やかな回復基調が続くものの依然足踏み。

業種別では、建設業は都市部の再開発、オリンピック関連工事に加え、設備投資の堅調な動きや、公共工事の増加を指摘する声が聞かれたものの、深刻な人手不足が足かせとなり、ほぼ横ばい。製造業は電子部品や自動車関連が堅調に推移したほか、産業用機械や化粧品などの化学も押し上げ改善。

卸売業は悪化。天候不順の影響により青果物の出荷が鈍かったことなどから売上が伸び悩んだとの声が聞かれたほか、夏物衣料品の需要が低

迷した。また、運送費上昇分の価格転嫁が難航しているとの声が幅広く聞かれた。小売業は好調なインバウンド需要を指摘する声はあるものの、消費者の節約志向が依然として強く、衣料品等が苦戦し悪化。

サービス業は悪化。夏休みの国内旅行や帰省客を中心に利用が伸びた宿泊業が好調だった一方、幅広い業種から人手不足に伴う受注機会の損失や人件費上昇を訴える声がある。地域によっては天候不順により客数が減少し、飲食業やレジャー関連業の売上が伸びなかったとの声も。

先行きについては、先行き見通しDIが▼16・4(今月比+1・8ポイント)と改善を見込むものの、輸出や設備投資の堅調な推移、インバウンドを含む観光需要の拡大に加え、公共工事の増加などへの期待感が伺える。他方、深刻な人手不足の影響拡大や、消費者の節約志向、運送費・原材料費の上昇、地政学的リスクなどを懸念する声が多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方も続く。

(山形商工会議所を含む全国423会議所の3,798企業を調査)